

令和3年1月27日

南の風 For Junior30

南部地区ミニバスケットボール連盟
会長 藤原 敬一

いよいよ最終の4Qになります。

ボールポゼッションは桜花。江村選手からのパスを左サイドのコーナーで受けた朝比奈選手が、素早くオーバーヘッドでローポストにアングルを取ったアマカ選手にパスを入れる。ここは成徳がダブルチームで守りミスショットを誘った。

成徳ボールとなり、パスを回して山田選手に合わせると左45°から右にフェイクを入れ果敢にドライブインする。朝比奈選手のファウルとなる。山田選手がフリースローを2本決めて10点差とする。成徳はオールコートのゾーンプレスを敷き上から当たる。桜花は江村選手が冷静にボールを運ぶ。しつこくディフェンスする成徳だが、江村選手がローポストにポジションを取ったアマカ選手にパスを入れゴール下シュートが決まる。(桜花64対52東京成徳)

桜花はさらに江村選手が右サイドからベースラインにドリブルすると、アマカ選手がエルボーからダイブする。江村選手のタイミング絶妙のパスがアマカに入りゴール下シュートが決まる。

流れを切りたい成徳は、山口選手がトップからディープスリーを決める。リズムを作りたい成徳だが、江村選手のドライブインをフォローしたアマカ選手がリバウンドからシュートを決め流れを渡さない。何とか食らいつきたい成徳は、古谷選手が右ウイングから3Pを決める。(桜花68対58東京成徳)

しかし桜花のアマカ選手の得点が止まらない。アマカ選手は江村選手とのハイピックからダイブする。ドリブルした江村選手からティーアップした朝比奈選手にパスが渡り、ローポストでアングルを取ったアマカ選手がパスを受けシュートが決まる。ドンピシャのタイミングだった。

その後もアマカ選手にディフェンスが集中すると、素早く朝比奈選手がエルボーに上がりシュートを決める。アマカ選手のシュート率も落ちず桜花が得点を重ねる。桜花74、成徳58となったところで東京成徳がタイムアウト。

桜花はタイムアウト明けもアマカ選手が着実に得点する。展開を打開したい成徳は、オールアウトから古谷選手がドライブでペイントを攻め得点したり、山田選手がトップの位置からジャンプシュートを決めたりして追いつがる。桜花は落ち着いて、中を守る成徳の逆を突いて前田選手が3Pを沈める。さらに江村選手の長いオーバーヘッドパスからアマカ選手がゴール下を決める。桜花81対62成徳となったところで成徳がタイムアウト。成徳はタイムアウト後、須田選手が左ウイングから3Pを決める。

桜花は攻撃の手を緩めず、アマカ選手のゴール下、朝比奈選手のダイブからのゴール下シュートが確実に決まる。さらにアマカ選手、江村選手のシュートが決まり勝敗が決した。

最終スコア、桜花89対65東京成徳となり、桜花学園が2年連続23回目の優勝を飾った

この桜花学園の優勝は高さを生かした攻めと、江村選手という絶対的なフロアリーダーがチームを一つにまとめた結果であった。敗れたとはいえ、東京成徳のどこからでも得点できるシュート力や、流れを掴みに行くオールコートプレス、チェンジングディフェンスは練習の賜物であった。そして緊迫したゲームの中で、東京成徳の選手が見せたさわやかな笑顔は、バスケットボールファンの心を魅了した。